

2023年11月26日（降臨節前主日、特定29、A年）

牧師メッセージ

「王なるキリスト」

（マタイによる福音書 25:31-46）

司祭ヨセフ太田信三

教会の暦は最後の主日を迎えました。今日は「王なるキリスト」の主日とも言われます。今日の福音で主イエスは、ご自分のことを「最も小さい者」と仰います。王様らしからぬ話しです。しかし、これがとても大事なことです。わたしたちは今日、あらためてわたしたちの王の姿を見つめ直しましょう。

「最も小さい者」とは誰でしょう。今日の福音では、それは「飢え、のどが渇き、旅をし、裸で、病気で、牢屋にいる」人のことです。主イエスは毎日このような人のところへ出かけて行き、苦しみを共に担い、その命を回復されました。主イエスは、「最も小さい者」をご自分のことだと仰っているように、それらの人々と一緒になり、痛みも、悲しみも、喜びも、その命のすべてを分かち合われました。これがわたしたちの王の姿です。この王様はどこか遠くにいて偉そうにしているのではなく、近くで寄り添ってくれる王様です。本当に良い王様です。わたしたちも主イエスに倣い、日々において「最も小さい者」と出会うことが求められています。

けれども、「最も小さい者」とは、社会を俯瞰して「ああ、あの人だ」と、対象化できるものではありません。それは出会って行くしかないのです。その出会いとは、ただひたすら目の前の相手を神さまが遣わされた方だと認めて、共に生きようとすることによってしか起こりません。そうして、今、目の前にいる人と関係する。するとさらに出会いが与えられて「最も小さな者」へと導かれていく。だからこそ、目の前の出会いが神によって起こされたこと、目の前の人を神から遣わされた人なのだとして出会うことが、まず大切わたしたちの基本姿勢です。

わたしたちの王様は、小さな赤子としてお生まれになり、最も小さな者をご自分を一緒にされ、最も小さな命として、わたしたちのために死んでくださった王様です。神さまはその小さな命をこそ復活させられました。わたしたちの王様はそうして、小さくされた命にこそ神さまのみ心が注がれていることをわたしたちに示してくださいました。今日あらためて、王なるキリストが指し示す小さなものへの眼差しをいただきましょう。そして、「正しい人たちが」、自分のしたことにも気付かず、利益を求めることもなく小さくされた命と関わったように、わたしたちもまたそのように生きることができるようになりますように。歩み新たに、来るべき降臨節を迎えましょう。